

2006 年度

<p>科目名</p> <p style="text-align: center;">日本語学概論 B</p>	<p>対象学科・学年</p> <p>文学部日文1回生 文学部日文2回生</p>	<p>担当者</p> <p style="text-align: center;">藤田 保幸</p>
<p>授業テーマ</p> <p>日本語の諸相</p>		
<p>授業の概要と目標</p> <p>日本語学の基礎的な事項を理解し、言語としての日本語についての理解を深めることを目標とする。また、私たちのことばを使った日常の生活を見直し、向上させていく手掛かりとなる時間にもしたい。概論Bでは、書きことばに焦点を当てるとともに、日本語を内側（規則）と外側（地域・社会とのかかわり）から見直して、関連する日本語学の諸分野の基本事項を講義する。</p>		
<p>評価方法</p> <p>筆記試験（学期末と随時の小テスト）70%、平常点（出席・受講態度等）30%という目安で評価する。適宜、課題を課して提出を求め、評価の参考（試験での評価の一部）とすることがある。</p>		
<p>テキスト</p> <p>日本語への五つの扉</p>	<p>著者</p> <p>藤田保幸</p>	<p>出版社</p> <p>私家版</p>
<p>参考書</p> <p>岩波新書『日本語（上）（下）』</p>	<p>著者</p> <p>金田一春彦</p>	<p>出版社</p> <p>岩波書店</p>
<p>授業スケジュール・内容</p> <p>講義形式で、およそ以下のような内容に関して授業を進める予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに—導入</li> <li>2. 言語と文字</li> <li>3. 日本語の文字・表記(1)—漢字と仮名</li> <li>4. 日本語の文字・表記(2)—漢字の問題</li> <li>5. 日本語の文字・表記(3)—仮名遣いの問題</li> <li>6. 日本語の文字・表記(4)—送り仮名の問題</li> <li>7. 日本語の文法(1)—学校文法とその限界</li> <li>8. 日本語の文法(2)—新しい文法研究の立場</li> <li>9. 日本語の文法(3)—文法と言語生活</li> <li>10. 日本語の文法(4)—事例研究</li> <li>11. 日本語の方言(1)—言葉の地域差と区画</li> <li>12. 日本語の方言(2)—諸方言の概観</li> <li>13. 日本語の方言(3)—方言の現在と将来</li> <li>14. 表現と理解—いくつかの読みの検証</li> <li>15. 総括と復習</li> </ol>		